

製品情報

殺虫剤

テッパン液剤



殺虫剤分類

28

農林水産省登録	第24023号
有効成分	シクラニリプロール・・・4.5%
性状	淡黄色澄明水溶性液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
危険物	第4類第3石油類
有効年限	3年
包装	500mL × 20本 250mL × 20本

特長

✓ 幅広い殺虫スペクトラムで重要害虫の同時防除が可能
 チョウ目、ハエ目、カメムシ目、アザミウマ目および甲虫目などの広範囲の害虫に効果を示します。特にチョウ目害虫には高い効果を示します。

✓ 速やかな食害抑制効果
 主に食毒により作用しますが、経皮的にも薬剤が取り込まれ、速やかに中毒症状を示し、摂食行動を停止させます。

✓ 作物に対する高い安全性

✓ 害虫の幅広いステージで安定した効果を発揮
 幼虫の発育ステージや温度に関わらず高い効果を示します。また、成虫に対する殺虫活性や産卵抑制効果をあわせ持っています。

✓ 優れた耐雨・残効性
 散布後、長期にわたって安定した効果を示し、耐雨性にも優れています。

適用作物と使用方法

作物名	適用作物名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シクラニプロールを含む農業の総使用回数
かんきつ	アゲハ類	2000倍	200～700ℓ			散布	
	アザミウマ類	40～50倍	10～12ℓ				
	ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類 ケムシ類 ミカンバエ成虫 ゴマダラカミキリ ハマキムシ類 クワノミハムシ カメムシ類	80～100倍	16～20ℓ			無人航空機による散布	
りんご	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 コガネムシ類 カメムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ ヒメボクトウ オオタバコガ ハスモンヨトウ	2000倍	200～700ℓ	収穫前日まで	2回以内		2回以内
なし	シンクイムシ類 ハマキムシ類 カメムシ類 ヒメボクトウ チュウゴクナシ キジラミ アザミウマ類						
もも	シンクイムシ類 ハマキムシ類 コガネムシ類 カメムシ類 モモハモグリガ コスカシバ クビアカツヤカミキリ						
ネクタリン キウイフルーツ	ケムシ類						
小粒核果類	ケムシ類 ハマキムシ類 シンクイムシ類 クビアカツヤカミキリ モモヒメヨコバイ コスカシバ						
おうとう	ハマキムシ類 カメムシ類 オウトウショウ ジョウバエ マメコガネ コスカシバ クビアカツヤカミキリ					散布	
ぶどう	ケムシ類 コガネムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ クビアカスカシバ ハマキムシ類						
	カキノヘタムシガ						

かき	イラガ類 カメムシ類 ヒメコスカシバ ハマキムシ類 アザミウマ類 ハスモンヨトウ コガネムシ類成虫						
いちじく	アザミウマ類 キイロショウジョウバエ						
ブルーベリー	ハマキムシ類 オウトウショウジョウバエ						
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ ヨモギエダシャク ツマグロアオカスミカメ マダラカサハラハムシ ナガチャコガネ成虫	1000倍	200～400ℓ	摘採3日前まで	1回		1回
	チャハマキ チャノホソガ チャノコカクモンハマキ	1000～2000倍					

※本内容は2026年9月9日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 出来るだけ発生初期に散布すること。
- 使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節すること。
- 薬剤抵抗性害虫の出現を防ぐため本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組合せて輪番で使用する事。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ① 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ② 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ④ 自動車などの塗装に被害を与えるおそれがあるため、散布区域内の諸物件に十分に留意すること。
 - ⑤ 水源池、飲料用水などに飛散しないように、十分に注意すること。
 - ⑥ 散布終了後は次の項目を守ること。
 - ・ 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
 - ・ 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③ 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- カメムシ類防除に使用する場合は、多発時には効果が劣ることがあるので注意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
- 危険物第4類第3石油類に属するので火気には十分注意すること。

魚毒性等

この登録に係る使用方法では該当がない。

保管

火気や直射日光をさけ、低温で子供の手の届かない場所に密栓して保管すること。

備考

IBJ防除情報119号（ぶどうでの本剤の位置づけ紹介）